**生命情報・認知科学特論最終レポート**

学籍番号　093750

氏名　渡邉雄大

テーマ「それでも我々には自由意志は存在するか？」

まず自由意志を理性的な行為者が判断に対するコントロールを行うことができることとする。つまり自由意志があるのなら、自分以外の外的要因によって自分の意志が左右されないこととなる。逆に自由意志がないのなら、どんな意志も外的要因によって決められていることとなる。

それを踏まえ、私は自由意志が存在しないと考える。以下にその結論までのプロセスを述べる。

自由意志がない場合、自分の意志以外の何かが人の行動を決めているのなら、人は自分の行動に責任はない。予め何かが自分の意志を決めていて、人間はそれに則って行動するのみだ。歩いても、走っても、跳んでも、それは自分以外の何かがそういう意志を埋め込んだからだ。だから人には何も責任はない。倫理的な観点から見ると問題のある考え方である。 根拠としては、そもそも脳自体が電気信号の集まりだから、コンピュータとなんの違いもない。ロボットと人間の違いはなにか。ドラえもんには意志がなく、人間には意志があるのか。結果だけ見ればドラえもんだって自由意志を持って行動しているように見える。人間と同じように泣いたり笑ったりする。でも中はプログラムで動くコンピュータだ。あらかじめプログラムによって決められている行動を行なっているに過ぎない。人間の脳だって、高度なコンピュータだ。所詮脳なんて物質の集まりだ。その脳の中で発生する意志だって、物理学的にある法則に則っているはずだ。

しかし、自由意志がないのだとするのならば、人間が選択する未来は決まっていることとなる。我々は今現在から過去のことしか知らない。なぜ未来のことを知らないのだろう。決まっているのなら知っていてもいいようなものだ。一見、上記のように脳もただのコンピュータだと言われると自由意志がないと納得してしまいそうだが、それは過去の事実をもとにそう言っているだけであり、我々がいる現在から先にある世界は、実際無限に存在している。あくまでも自由意志を否定する者の根拠は過去にあり、決してこれまでそうだったから未来もそうなるとは言えないのである。一度意志を決定してしまえば、その意志にはなんらかの原因があるのは、当たり前である。一度選んだ選択に対する原因なんかいくらでもこじつけられる。問題は、未来にはいくつか選択肢があるということだ。その選択肢を選ぶことこそが自由意志なのではないだろうか。

　どちらもそれぞれ納得できそうな考え方であるが、私が自由意志を否定する大きな根拠は、私自身がロボットと人間の違いが分からないためである。脳も所詮物質なのだから思考ルーチンに則って意志を決定している、という考えに納得してしまったのだから仕方ない。正直なところ、どちらの意見を選ぶかはその根拠に自分が納得いくかだけである。そして納得したのは、私がその考え方に納得するように意志が決まっていたからだと思う。

　だが、自由意志がないから人間の行動には責任がない。たとえ罪を犯しても許されるなどとは思っていない。なぜなら、自由意志の否定とは意志が外的要因の影響を受けるものであるから、外から意志を更生させることが可能であるということだからだ。人間に自由意志がなく、自分の行動に対して責任を持てなくとも、社会的にはその人間を放って置くわけにはいかない。ならば、社会に合うよう更生させればよい。乱暴な言い方だが、脳のプログラムを修正するようなものだ。逆に自由意志では、人間に責任があり、罰を与えることは可能であるが、もしかしたら、自由意志によりまた過ちを犯すかもしれない。そのため、人間に自由意志がないからといって現在の社会が劇的に変わるわけでもないのである。